

## 第2編 後期基本計画



小中学校絵画「私たちの住みたいまち」  
優秀賞 勝倉小学校 6年 長我部 あやのさん

中学生作文  
「私の住みたいまち」優秀賞

お年寄りに優しいまち

田彦中学校 2年 人見 彩花

「私の住みたいまち」は、お年寄りに優しいまちです。今は、高齢化が進み、たくさんのお年寄りが生活しています。お年寄りは、今まで私達を支えてくださった方々です。感謝の心をもって、お年寄りに優しく接していきたいと思います。

ところで、私は今まで、バリアフリーには全く関心がなかったのですが、ある出来事がきっかけでお年寄りに優しい街について考えるようになりました。その出来事とは、祖母と買い物に行った時のことです。膝と腰を痛めてしまった祖母は、車を運転できないため私と歩いて店まで行きましたが、歩くのに一苦労しました。横断歩道の信号は、すぐに赤に変わってしまうし、交差点も砂利道で歩きづらかったです。また、ある時は、祖母が店の中でカートを押した時に、段差につつかかり、右腕を骨折することもありました。自分の祖父母だけでなく、知り合いのおじいさん、おばあさんも同じようなことで困っている人がいて、見ていてとても心が痛みます。

バリアフリーを考えると、歩行者の横断時間を延長できる機械の設置や交差点での歩道の確保と整備があると助かります。また、店の中での段差をできるだけなくしてもらうか、段差に注意という看板の設置も考えました。現在、こうした街づくりが進められると聞いて、本当によかったと思います。

でも、やはり大切なことは、お年寄りに優しく接することではないでしょうか。私は、自分の祖父母のことが大好きです。たくさんのおじいさんやおばあさんたちのお陰で、今の私たちがいることを忘れないようにしましょう。電車の席をゆずるとか、一緒に横断歩道を渡ってあげるとか・・・。お年寄りに優しい言葉をかけ、親切にしてあげたいと思います。今まで、支えてもらったことを忘れずに、みんなで支え合い、幸せに暮らせるまちが私の理想のまちです。年齢に関係なく、支え合っていける関係を築き、思いやりのあふれる街になるよう願っています。

## 第1 後期基本計画の策定に当たって



小中学校絵画「私たちの住みたいまち」  
優秀賞 那珂湊第1小学校5年 面澤 玲奈さん

## 1 計画の期間

この後期基本計画は、平成23年度から平成27年度までの5年間を計画期間とします。

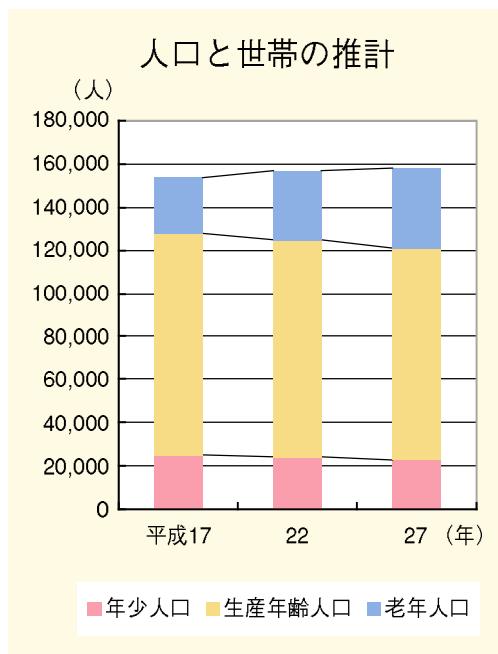
## 2 人口と世帯

全国的に少子高齢化が進展し、平成17年にわが国の総人口が長期の減少過程に転じたといわれる中にあって、本市は他の市町村に比べて総人口に占める若い世代の割合が多く、また、今後のひたちなか地区開発による就業人口の増加も見込まれることから、平成27年まで総人口は緩やかに上昇するものと見込まれます。

このため、後期基本計画の目標年度である平成27年度における本市の人口を約158,000人と想定します。

年齢階層別の割合では、年少人口割合は14.4%，生産年齢人口割合は62.1%，老人人口割合は23.5%になるものと予想されます。

世帯数については、核家族化により世帯当たり人数が減少している状況を踏まえ、平成27年度には約64,600世帯まで増加するものと想定します。



区分	年次		平成17年	平成22年	平成27年
	年齢階層別	世帯数	総人口	世帯数	総人口
年齢階層別	0～14歳 (年少人口)	24,929人 (16.2%)	153,639人	24,200人 (15.4%)	156,900人 (※157,012人)
	15～64歳 (生産年齢人口)	102,957人 (67.0%)		100,600人 (64.1%)	98,200人 (62.1%)
	65歳以上 (高齢人口)	25,739人 (16.8%)		32,100人 (20.5%)	37,100人 (23.5%)
	世帯数	56,319世帯		60,900世帯 (※60,276世帯)	64,600世帯
	世帯当たり平均人員	2.67人／世帯		2.57人／世帯 (※2.60人／世帯)	2.44人／世帯

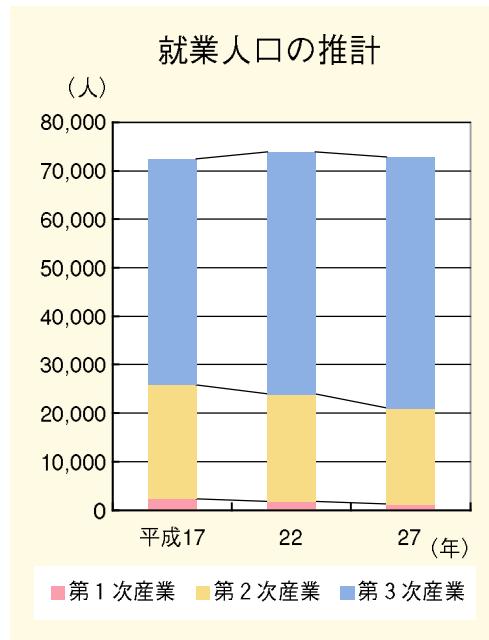
(国勢調査及び常住人口調査に基づく推計値)

※総人口、世帯数および世帯当たり平均人員の括弧内は、平成22年国勢調査による速報値。

### 3 就業人口

ひたちなか市の就業人口は、ひたちなか地区への商業・業務施設や工場の立地などにより、増加する要素はあるものの、少子高齢化の影響により、平成27年度には約72,800人になるものと想定します。

産業別の割合では、サービス業の増加により第3次産業の就業人口の割合が71.0%となる一方、農業や水産業を中心とする第1次産業は1.8%，製造業を中心とする第2次産業は27.2%に減少していくことが予想されます。



区分	年次	就業人口		
		平成17年	平成22年	平成27年
産業別人口	第1次産業	2,419人 (3.3%)	1,800人 (2.4%)	1,300人 (1.8%)
	第2次産業	23,505人 (32.2%)	22,200人 (30.1%)	19,800人 (27.2%)
	第3次産業	46,471人 (63.6%)	49,800人 (67.5%)	51,700人 (71.0%)

(国勢調査及び常住人口調査に基づく推計値)

中学生作文  
「私の住みたいまち」優秀賞

元気がでる町

阿字ヶ浦中学校 1年 立枝 千依

住みたい町ってなんだろう？お菓子の町？夢の町？それは、あくまでも想像の中での町です。でも実際に暮らしている所は、スーパーマンがいる訳もなく、魔女がいる訳もない人間が関わり合う社会です。今、私達が生きている社会は充分に整っているのだけれど、欲をいうと私は、自分に誇りを持ち、一生懸命、暮らしている人が、たくさんいる町に住みたいです。なぜなら、その町で辛いことがあっても一生懸命、暮らしている人がたくさんいたら、自分も元気が出てきて、がんばろうって思えてくると思うからです。

こう思った訳には理由があります。その理由は小学校の時、家族で行った旅行先での経験から感じたことです。それは訪れた町で買い物をしている時、その町の人は、仕事でとても生き生きとしていて買い物をしている私とお母さんも楽しい気持ちになったからです。

例えば母と私がその町のお肉屋さんに行きお肉を買ったら店の人が、その肉のおいしい食べ方や料理を教えてくれて幸せな気分になりました。小さな事だけど心の通い合う人がいると町全体が明るくなり良いと思ったからです。逆に、ある町で嬉しい事があっても町の人が冷たく、やる気がなく暮らしていたら、自分も悲しくなり気持ちが沈むと思います。だから私は人に大切なのは沈んだ心や辛い心を慰めてくれる・・・あるいは楽しい心をもっと楽しくさせる人間の笑顔と人が一生懸命、生きる姿が必要だと感じたのです。

私の住みたい町・・・。それは疲れた心をいやしてくれる海や山、つまり自然と、一生懸命、暮らしている人がたくさんいる町です。その町なら、どんな事があっても自分の心を前向きにできると思います。そんな町で暮らし、私も悲しい心や辛い心を慰める立場になりたいと思いました。